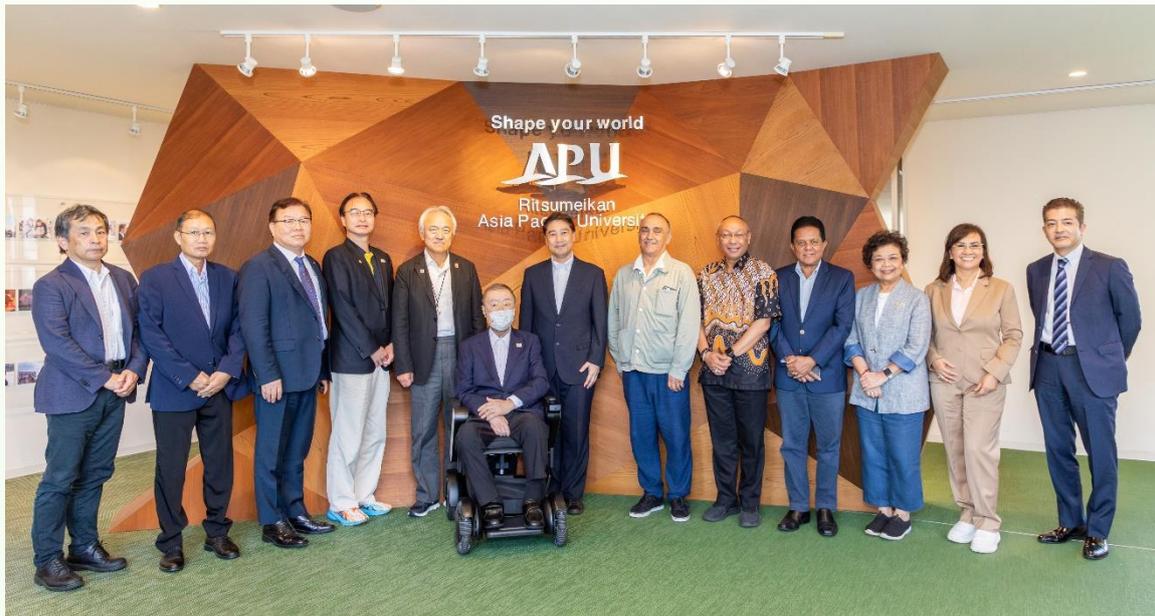


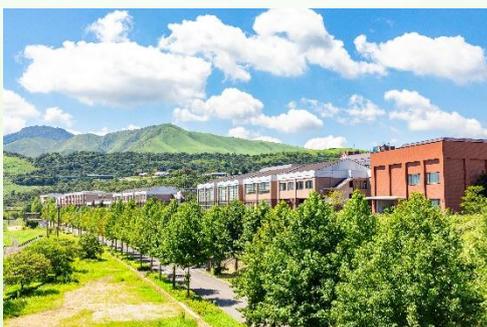


FAVA ONEHEALTH FUKUOKA OFFICE

## ラファエル世界獣医師会会長とアジア獣医師会連合(FAVA)執行部の皆さんを、 「立命館アジア太平洋大学(APU)」にご案内しました



令和5年9月4日(月)、ラファエル世界獣医師会会長とアジア獣医師会連合(FAVA)執行部の皆さんを、大分県別府市にある「立命館アジア太平洋大学(APU)」にご案内しました。



立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、2000年4月1日、別府市に誕生しました。その美しい環境は、学生たちがアジア太平洋地域への理解や国際的な交流を促進するための理想的な場所になっています。



立命館アジア太平洋大学では、約100の国と地域から留学生を受け入れており、学生の多様性が特徴です。留学生と日本人学生が共に学び、異文化理解を深めながら、グローバルな視野を持つリーダーを育成しています。

### 【藏内勇夫所長:挨拶】

アジア獣医師会連合(FAVA)は、アジア・オセアニア地区を対象にした獣医師連合会です。現在、23か国が参加しており、獣医師40万人の組織です。8月1日は、FAVA の組織の中に「ワンヘルス福岡オフィス」を福岡市の天神に開所をいたしました。

「ワンヘルスというのは、地球上の命は一つである。人の命も、動物の命も地球環境も、皆繋がっている。」という考えです。今年行われましたG7広島サミットでも、「ワンヘルスを推進する」ということが決定をされました。特に、6月の閣議で「経済財政運営と改革の基本方針」、いわゆる「骨太の方針」にもワンヘルスが明記をされ、ワンヘルスの重要性が強く認識されてきました。



貴学におかれては、「APU2030 ビジョン」において、「サステナビリティ観光学部」を開設されたと教えていただきました。素晴らしい取り組みだと思えます。

大分と関係がありますが、日田彦山線、久大線。これは、温暖化により、気象変化による災害を受けました。これを復興するにあたっては、環境を守っていく、人間が壊した環境を守っていく、ワンヘルスという考え方でここを補修しました。そして、その先には、観光に結び付けようと。つまり、ワンヘルスの先進的領域として復興させる。そこで走る日田彦山線には、トヨタ自動車と共同研究しました水素燃料バスを走らせる。まさしくカーボンニュートラルなのです。次世代の燃料を使って、ワンヘルスを推進することを売りにして、多くの方にあの地域においていただくということです。先ほどお聞きしました「サステナビリティ観光学部」と全く同じことをやらせていただいていると思ったところです。

今後、この「ワンヘルス」を世界に普及していくには、やはり教育の中でしっかりとやっていかないとけないと思っております。

(一部抜粋)

### 「サステナビリティ観光学部」

持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や地球規模の問題を解決するために、学術的知識と革新的な研究に取り組む学問的実務家のコミュニティを目指しています。

また、社会と地域について学問横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する基礎的・専門的知識を修得し、論理的・批判的な思考、定性的・定量的な分析、問題解決および異文化環境におけるコミュニケーションや協働の力を身に付けることで、世界市民としての責任感に基づいて行動できる人材を育成することを目的としています。

